

巻頭言

お茶大にふさわしい人

A desirable person for Ochanomizu University

山本 秀行

Hideyuki YAMAMOTO

飛行機に乗ったり，結婚式に出たりするときには，すこし早めに家を出ることになっている。しかし，たいてい着くのは定刻ギリギリで，冷や汗と本物の汗をたっぷりかくことになる。途中で古本屋とパン屋があると，思わず立ち寄ってしまうからからである。それだけではない。遅刻しないように用心するあまり，つい予定より早めの電車に乗ってしまうという癖があるからである。

先日も，羽田空港に行くとき，横浜駅でこの癖がでて，一本早くきた特別快速にとび乗ってしまった。乗ってから，いやに空いているので変だと思っていたら，その電車は車庫に入るため，次ぎの駅止まりということがわかった。おかげで空港の長いエスカレーターを，両手に重い鞆を下げて，絶望と後悔の念にさいなまれながら，全力で駆け上がるというパニックをたっぷり味わってしまった。いまだにその後遺症から回復していない。

僕は，目的や目標に最短距離でアクセスできず，途中でウロウロしてしまうタイプに属するようだ。悲観していたら，アリのなかにも，そうしたタイプがいることがわかった。この秋に札幌市で開かれた日本動物行動学会の報告によると，アリにもエサ集めのうまい優秀なアリと下手なアリがいるらしい。興味深いのは，集団内にエサ集めの下手なアリがいた方が，優秀なアリだけの集団よりもたくさんエサが集まった，という実験結果である。

迷ってウロウロするアリがいると，新しいエサを発見するチャンスが高くなる，というのがその理由らしい。優秀なスタッフが揃っているお茶大には，ウロウロ・タイプが絶対必要ということになる。この発見で，すこし気持ちが楽になった。

(総合情報処理センター長)